

と信 ひ短

うことはあるものの、
「二から勉強が必要な
こともあり、やりがい
を感じることも多い」
と気力十分だ。

ピロリ菌外来を担
当。二十代でも二割近
くが感染しているとい
われており、若い世
代にも除菌の必
要性を訴えてい
る。

これまで上・
下部合わせて一
万五千例以上の
経験がある消化
管内視鏡は、「技
術が患者負担に
影響する
ため、鍛
錬の継続
が大切」
とし、積
極的に症

内視鏡の負担軽減へ 症例重ねて鍛錬重視

「意思表示できない
患者の場合、わずか
な変化も見逃さ
ず、迅速に対
応することが重
要」と話す、札
幌ライラック病
院の板橋健太郎
消化器内科医
師。

石狩の病院や

札幌のク
リニック
などで内
視鏡をメ
インに診
療に従事



し、四月から現職に。例を重ねていく考え

人工呼吸器患者を診るだ。
機会が多く、経験した
ことがない医療に戸惑
れ。札幌市出身。
昭和五十二年生